

大好き！吉岐！ 紹介「しまおこし人」

vol.5

郷ノ浦町・宝亀 継吾さん(34)



「大好き！吉岐！紹介」しまおこし人、このコーナーは、「愛する吉岐の島の島おこし、今以上に住みよい島になっていくために、何か役立てる自分でありたい」と、様々な活動や行動を起こしている若者たちや市民を紹介するコーナーです。



芦辺町、一支国博物館主催(本紙など協賛)のサマーコンサートが8月11日午後7時(開演)から、同博物館3階・屋外展望広場で、福岡出身の女性シンガー・ソングライター「AKEMI Lady-A」さんを招いて開かれることになった。

AKEMIさんは、ソウル、ジャズ、ゴスペル、演歌、童謡と、ジャンルを超えて音楽を表現、アメリカ

高校のプラスチック部で打楽器を担当、進学した大学でもプラスチック部に入り部活動が盛況だった。おおよそ20年を経た現在も、ドラムにかける情熱、気持ちは全く変わらないという。

そのドラムが縁で、学生時代のプラスチック部・打楽器担当の後輩、夫人の智子さんと、打楽器セクションの同窓会的集りで再会し、昨秋にゴールインした。

ドラムは大学卒業後、吉岐へ戻り家業や町内の仕事をしながら、高校生の頃は何か歌にせよ、思いつき叩いていたドラムの音量が、

近所迷惑になつてしまったのでは？と思われ、おおよそ1年間のプラスチック部を離れ、久間さんからは「止めるのはいない」といふ誘われて、10年くらい前に誘われて以来、「KUM Aバンド」のドラムを担当、自分たちの演奏で、聴きに来てくれた人たちに楽しんでほしい、明日の力になるような、素敵な時間を過ごしたいと、山笠(7月29日、前夜祭28日)にかかり、入れ込んだ毎日がやってくる。

不景気で厳しさが増すばかりで、今ではそれが当たり前のような現状がある。そんな山笠に世知辛い世の中で、山笠の「ヨーカイタ！ヨーカイタ！」の掛け声に、皆を励まし、地域振興の願いを込めて頑張りたい。

音楽、ドラムとの出会いに感謝

音楽をきっかけに結婚をし、寄り添う人がいてくれるというこの素晴らしいことを知った。それはやる気の源。本当に音楽、ドラムとの出会いに感謝している。

8月11日午後7時開演 「AKEMI Lady-A」来演
一支国博物館サマーコンサート

AKEMI Summer Concert by IKIKOKU MUSEUM

2012年8月11日(Sat.)
18:30 OPEN 19:00 START

一般 ¥1,000 前 ¥1,500
学生 ¥800 (中学生以下 ¥500)

チケットは、前売り1,000円、当日1,500円、年間パス800円(2枚まで)で、今月21日から

の吉岐の島をバックにその歌声を披露、豊かな表現力でタップリと聞かせる。

チケットは、前売り1,000円、当日1,500円、年間パス800円(2枚まで)で、今月21日から



カラオケのステージで義父と共演する宝亀さん

内閣府男女共同参画局の本年度「男女共同参画週間」が23日から29日まで、「あなたがいる わたしがある 未来がある」をテーマに、わたしがいる 未来がある」をキャッチフレーズ、「男女共同参画による日本再生」を重点に実施された。

芦辺町の会場で啓発活動

推進懇話会、市企画振興部、政策企画課が23日、芦辺町、ダイエー吉岐店前と石田町、マリンパル吉岐前で、同週間をアピール、男女参画と同週間の意義など訴える啓発活動を実施した。

芦辺町の会場で啓発活動

推進懇話会、市企画振興部、政策企画課が23日、芦辺町、ダイエー吉岐店前と石田町、マリンパル吉岐前で、同週間をアピール、男女参画と同週間の意義など訴える啓発活動を実施した。



ダイエー吉岐店前で実施された啓発活動

男女共同参画社会を 実現するための5本の柱

【基本理念】

- ①男女の個人の尊重
男女の個人としての個性を重んじ、男女の差別をなくし、男性も女性もひとりの人間として能力を発揮できる機会を確保する必要がある。
- ②社会における制度または慣行についての配慮
固定的な役割分担意識にとらわれず、男女が様々な活動ができるように社会の制度や慣行の在り方を考える必要がある。
- ③政策的立案及び決定への共同参画
男女が社会の対等なパートナーとして、あらゆる分野において方針の決定に参画できる機会を確保する必要がある。
- ④家庭生活における活動と他の活動の両立
男女が対等な家族の構成員として、互いに協力し、社会の支援を受け、家族としての役割を果たしながら、仕事や学習、地域活動等ができるようにする必要がある。
- ⑤国際的協調
男女共同参画づくりのために、国際社会と共に歩むことも大切。他の国々や国際機関と相互に協力して取り組む必要がある。



ネムの花

大切なのは、一人ひとりが、新しい「緑」、美しい「青」にめざめること

6月は「環境月間」

現在の社会は、地球の自然・環境を資源として築かれています。その結果、森林は伐採され、石油など化石燃料の消費などによる温暖化がすすみ、海面上昇により沈みゆく島や土地、消えゆく命があるなかで、様々な資源、エネルギーをいまだに奪い合い、深刻な事態に陥っている現実が存在し、特に、東日本大震災の原発事故の発生で、原子力の見えない影響に疑心暗鬼となり、それまで良好だったコミュニケーションが奪われてしまう事態も発生しています。環境の日、環境月間を契機に、「未来の生命」について考え、「自然・生命の和、循環」に根差したそれぞれの場でできる行動、活動が強く望まれ、今この瞬間からも求められ、迫られています。